



平成25年 9月19日

報道機関各位

熊本大学

熊本大学が「研究大学強化促進事業」支援対象機関に選ばれました

内容等

内 容

文部科学省において、平成25年度「研究大学強化促進事業」の支援対象機関の選考が行われ、このたび、熊本大学が選定されました。

(1) 特色

文部科学省で今年度から開始される、研究戦略や知財管理等を担う研究マネジメント人材（リサーチ・アドミニストレーターを含む）群の確保・活用や、集中的な研究環境改革を組み合わせた研究力強化の取組を支援することを目的とした研究大学強化促進事業に本学が選ばれました。

本学では、本事業の取り組みとして以下の5点（①研究推進実施体制の一元化②国際共同研究の推進と環境整備③戦略性に富んだ教員人事の実施④UR A人材の育成と確保⑤研究の効率アップのための支援体制強化）により制度改革を予定しております。

(2) 話題性

大学等（大学及び大学共同利用機関法人）において、全国で22機関、九州では九州大学と本学のみ選ばれております。

今後、本学の研究活動の強み・弱みや課題等を状況分析することによって、「世界的に評価される先端的な研究」を推進していきます。

問い合わせ先

熊本大学マーケティング推進部

研究推進ユニット

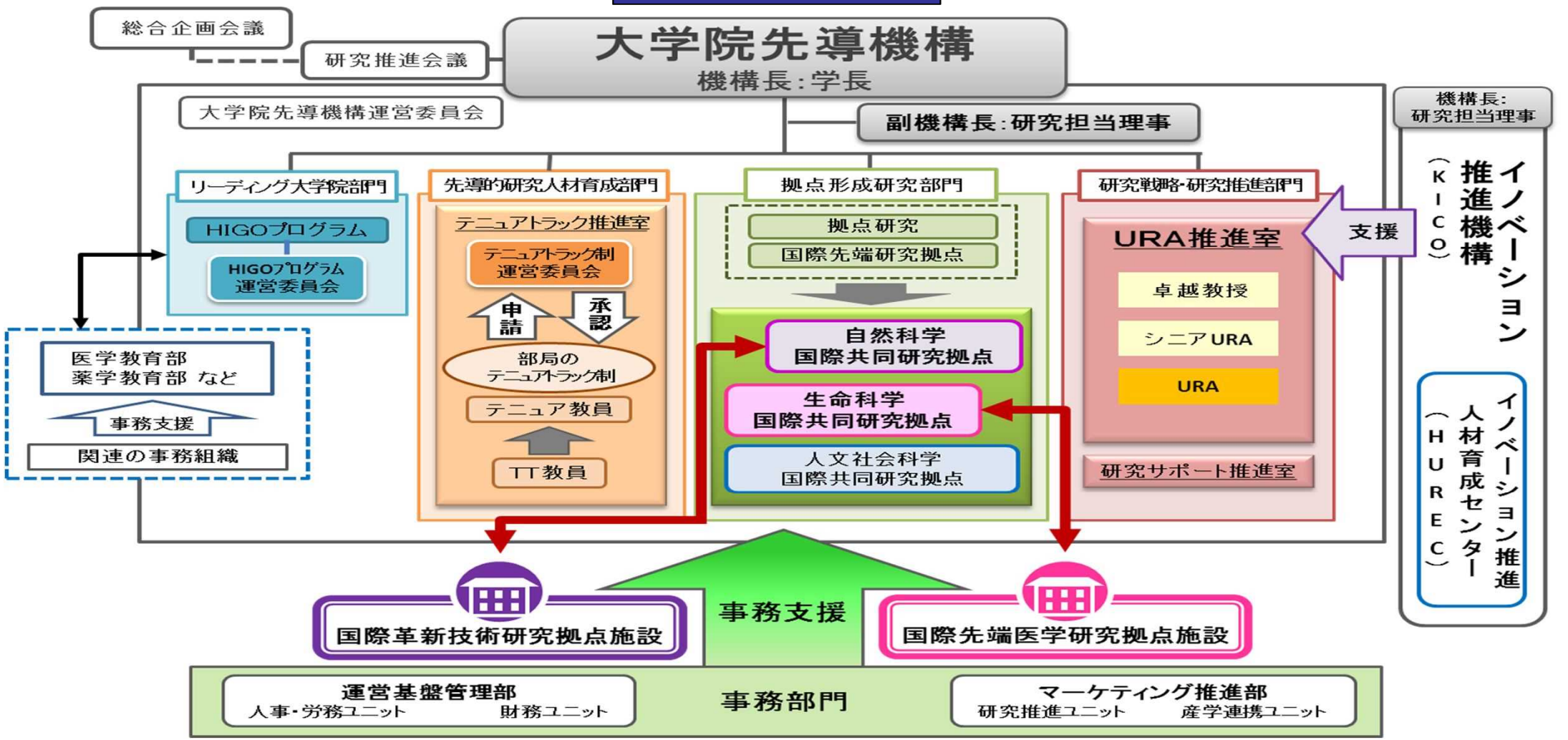
担当 上田 (Tel 096-342-3208)

文部科学省「研究大学強化促進事業」熊本大学 ～世界的に評価される先端的な研究を推進強化～

平成25年度配分予定額：200百万円

生命科学、自然科学、人文社会科学の3分野に組織する国際共同研究拠点において、優れた研究者を選抜し、それらの教員を支援するURAを配置する。このことにより、研究の国際性を中心として研究力の強化を図り、世界的にも先端的な研究を推進し、特色ある基盤的研究を強化。

事業の実施体制



研究活動の強み・弱みや課題等の状況分析

現状・課題

- 有能な若手研究者の確保について、主に自然科学系に留まっており、生命科学系(特に医学系)、人文社会科学系では少ない。
- 大学の国際化について、学部留学生は全学生の0.6%にすぎず、外国人教員等は全教員の4.2%に過ぎない。
- 論文の国際共著率は23.1%であり国内平均にも及んでいない。

研究分析

- エルゼビア社、トムソンロイター社のデータベースを利用した独自の分析結果によれば、被引用数上位200に熊本大学が入っている分野について、自然科学系では金属・金属工学分野、生命科学系では発生生物学分野があげられ、これらの業績が優れている。特に熊大マグネシウム合金の研究成果は大きな注目を浴びている。
- 論文シェア率の高い研究分野の解析結果においても、自然科学系ではマグネシウム合金、パルスパワー、生命科学系ではエイズ学、発生医学の分野が優れている。
- 新しい組織の設置や改組の時期が、被引用論文数増加の基点となっている。つまり、これまで新たな組織の設置や改組の際、新しいポジションへ戦略的な教授選考が行われ、その分野の研究力に推進に大きな役割を果たしたと考えられる。

本事業により取り組む制度改革

研究推進実施体制の
一元化の実現

研究の国際化を更に進めるための
国際共同研究の推進と環境整備

戦略性に富んだ
教員人事の実施

URA人材の
育成と確保

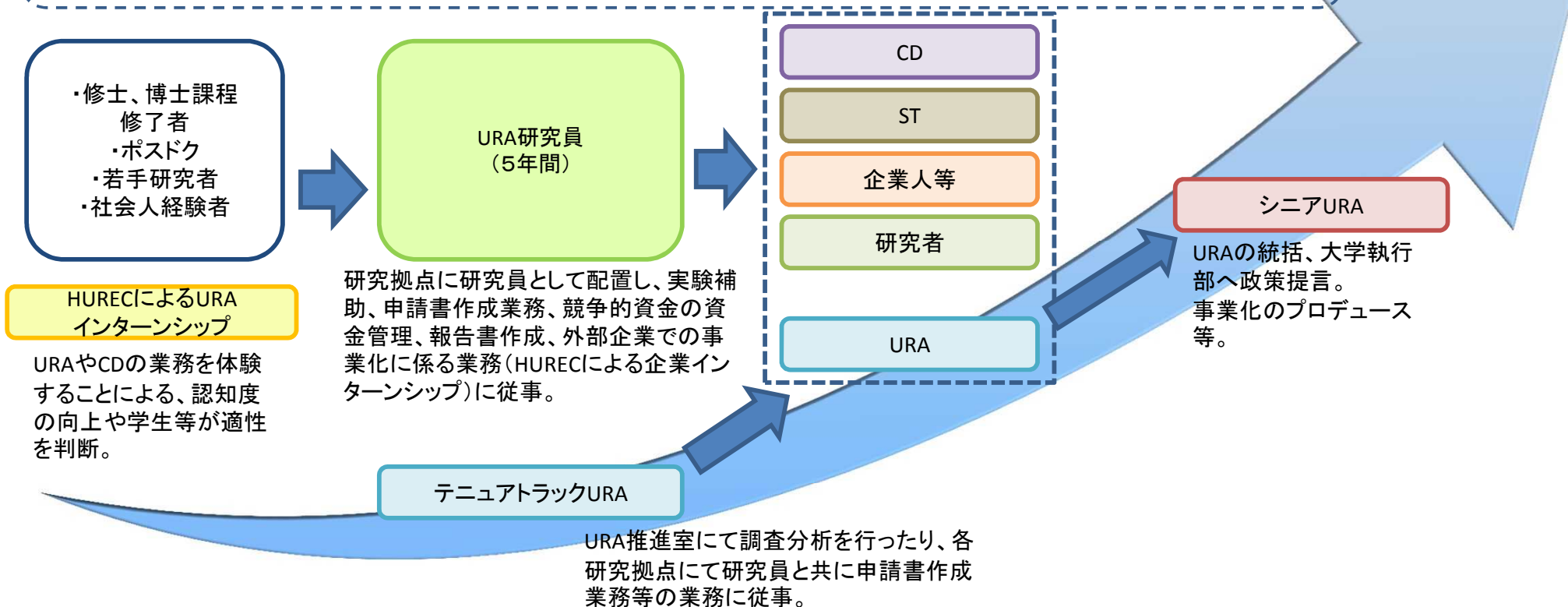
研究の効率を上げる
ための研究支援体制の強化

URAの確保・活用の取り組み

1. そもそもリサーチ・アドミニストレーターに対する認知度(学内外)が不足しており、特に地方都市では有望な人材が得がたい。
2. 最終的にURAを研究支援、産学連携を通じ、事業化をプロデュース出来る人材に育成することが必要。
3. 育成・確保にあたっては、他の職種(CD、ST、企業人等)でも活躍できるような配慮が必要。

熊本大学で実施するURA人材のキャリアパス

- ・大学院生等に対するインターンシップの実施。
- ・ポスドク、若手研究者、社会人経験者(概ね30代前半まで)をURA研究員(非常勤職員)として雇用し実務経験を積むことによる適切な適性の確認(インターンも含め最大3回)と、幅広いキャリアパスの提示。
- ・URAの他にも、産学官で幅広く活躍できる視野をもった人材を社会に輩出



本事業により取り組む研究環境改革（研究力強化構想の有機的構成）

大学院先導機構

機構長：学長 副機構長：研究担当理事

先導的研究人材育成部門

リーディング大学院部門

研究戦略・研究推進部門

拠点形成研究部門

拠点研究

国際先端研究拠点

創造する森

自然系

人文系

生命系

卓越教授

URA

URA

卓越教授

URA

自然科学
国際共同研究拠点

人文社会科学
国際共同研究拠点

生命科学
国際共同研究拠点

テニュアトラック教授・准教授の
国際共同拠点への参画

- 国際研究環境の整備の加速
- テニュアトラック制の拡大
- 研究支援体制強化

国際革新技術研究拠点施設

国際先端医学研究拠点施設

国際共同研究の加速

挑戦する炎